

2018年07月17日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【不安を感じることは、リスクに気が付いていること】

相場をやっていると、不安なときの方が勝つ確率が高いことに気が付きます。

不思議なものですが、不安に思うということは、リスクに気が付いている、ということです。

そういったときは、相場の動きや相場の変動要因となる材料、ニュースなど十分に配慮した上でポジションを取っています。

それは、相場が思惑と逆に動く場合には、「これからこういったニュースが出るはずだ」と気が付きながら、それでもあえてポジションを張っている、ということです。

リスクに気が付いていながらもポジションを持っている状態です。

ですから、不安になるのです。

こういったニュースが出たら負ける——それがわかっていながら、そんなニュースは出ないだろう、出ないはずだ、と祈りながらポジションを持っているわけです。

人間は楽観的につくられています。

だから、自分だけは助かるような気がどこかしらにあります。

そういう現実があるので、本質的に楽観的であるから、相場に参加する人が途絶えることはありません。

学校のテストを思い出してください。

勉強すると、自分が知らないことに気が付きます。

一生懸命に勉強してテストに臨むと、知らないことを知っているから、テストが終わったときに、どこができなかったか、どこを間違えたかに気が付いています。

ですから、テストが終わったときに不安になるのです。

根拠のない自信があるときの方が、テストの点数は悪いものです。

間違ったところにも気が付いていないから、

「まあ、何とかなるだろう」

「一応全部埋めたし、何となくできているだろう」

といったような気分になります。

そういったときのテストは、壊滅的な点数だったりするものです。

知らないことは書けないし、できないことはできないのです。

スポーツで言えば、「練習でできないことは本番でもできない」ということです。

相場に臨んでいるときも同じです。

不安を感じることは、リスクに気が付いていることなのだ、と考えるのも大切なことです。

+++++

(2018年07月17日東京時間13:30記述)